

まえがき

令和4年度は、新型コロナウイルス感染の長期化をはじめ、ウクライナ紛争の影響による原油価格や物価高騰など、社会情勢に大きな変化があった1年となりました。

このような状況の中、国立登山研修所においては、平成30年度からスタートした第4期中期計画期間を通して、文部科学大臣からの中期目標である機能や役割について見直しを行う「機能向上検討委員会」を設置し、様々な角度からの議論を踏まえ、20年後を見据えたグランドデザイン「誰もが安全に登山を楽しめる社会の実現」として、まとめていただきました。

令和5年度から始まる第5期中期計画期間においては、山岳関係機関等とのさらなる協力連携体制の構築、調査研究事業の充実、情報発信としてのデジタル化の促進を目標にして、登山界のニーズを踏まえた施設運営と研修事業等による安全な登山に向け、より一層の充実を図りたいと思います。

また、老朽化した本館をはじめ夏山、冬山前進基地の改修に向けた新たな機能向上を付加するための改修計画などに関する経費について、12月に決定された国の補正予算にて計上されたところです。

さて、「登山研修vol.38」は登山に関する調査研究や登山界の現状や課題に加え、コロナ禍での海外登山に関する記事、そして新たに障がい者登山に関する記事について寄稿いただきました。

より多くの皆様に読んでいただくことを期待すると同時に、新型コロナウイルス感染症の1日も早い終息を願っております。

末筆になりましたが、ご多用中にもかかわらず玉稿をお寄せいただきました執筆者の方々並びに編集委員の皆様には厚くお礼を申し上げます。

令和5年3月

国立登山研修所長 米 山 隆